

2021事業計画：CSOメッセージ(成長領域の開拓)



常務執行役員 CSO 兼 ドメインCEO
エナジードメイン長

加口 仁

自由な発想、新技術こそが、 当社グループの未来を支えていく

当社グループの将来を担う成長の柱は「エナジートランジション^{※3}」と「モビリティ等の新領域」です。2021事業計画では、この2本柱に経営資源を集中し、これまで蓄積してきたノウハウに新技術を融合させることで、2030年には1兆円の新事業を創出していきたいと考えています。2020年4月に発足した「成長推進室」が、関連するドメイン、セグメントと協調しつつ、この分野への投資と事業拡大を推進する役割を担っています。

「エナジートランジション」においては、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを行います。これまで、世界最高効率のガスタービンや、CO₂回収・利用・貯蔵(CCUS)装置の製造を実現しており、これらの技術を既存の発電事業に組み込むことで、CO₂排出量の削減に貢献しています。次に目指しているのは、水素(およびアンモニア等の水素輸送媒体)をはじめとするクリーン燃料の生産・輸送・貯留を経て安定的な

2021事業計画：CSOメッセージ（成長領域の開拓）

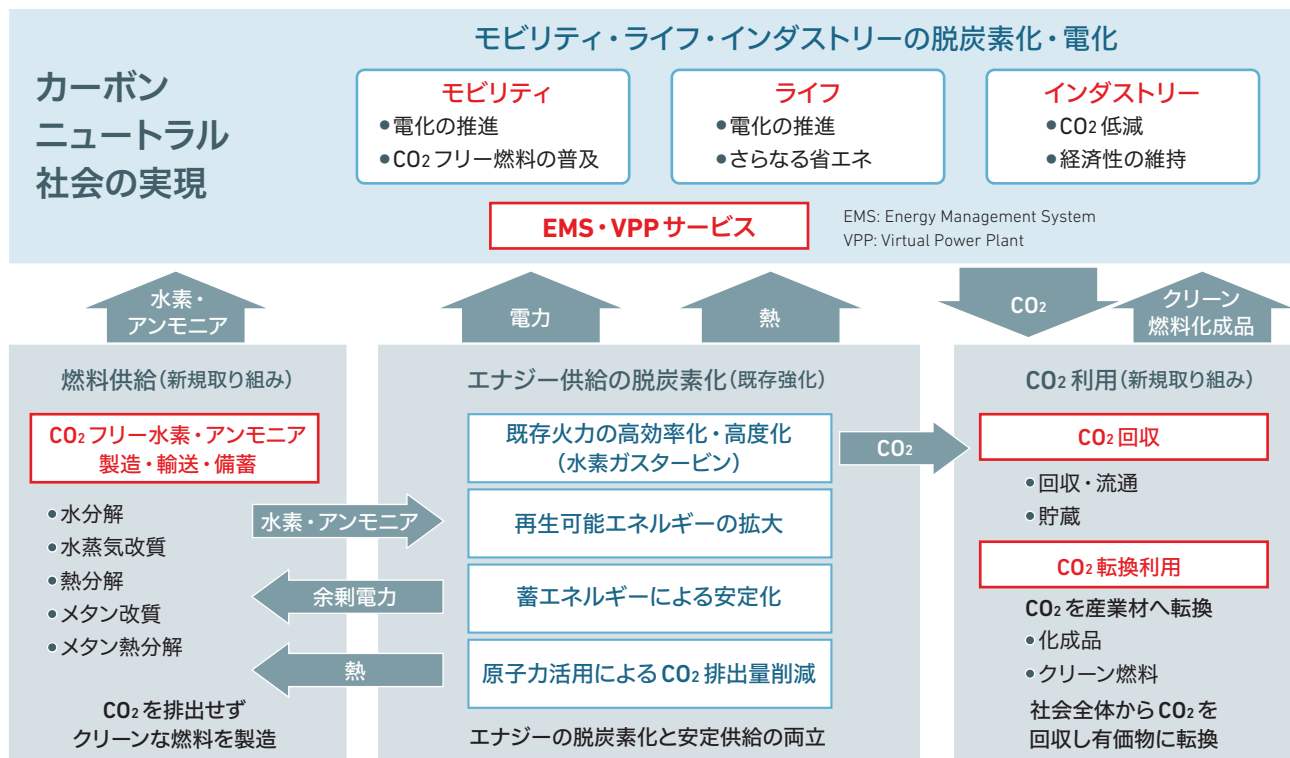
需要を生み出すバリューチェーンを構築し活用推進を図ることです。

※3 エナジートランジションの詳細については、P36「特集：脱炭素・カーボンニュートラル社会に向けた新たな挑戦」をご覧ください。

「モビリティ等の新領域」においては、成長推進室を核として、組織横断の取り組みにより新領域を開拓し、多様な製品や技術のデジタル化・AI化を進めることで新たな価値を提供していきます。多様化、高度化するお客さまのご要望に応えるため、多様な機械システムを統合制御してお客さまの課題を解決するソリューションビジネスへの転換を進めており、こうした取り組みを加速していきます。まずは物流事業をモデルケースとして、「自動化物流」や、「コールドチェーン」等のソリュー

ションを提案し、お客さまの課題や潜在的なニーズに対応していきます。近年のライフスタイルの変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、厳格な温度管理を要する輸送ニーズに対応すべく、コールドチェーンの構築が重要性を増しています。当社グループがこれまで製造してきた自動倉庫システム、フォークリフト、ビル用・トラック用冷凍ユニットなどをスマートソフトウェアによって有機的につなぎ、保管・配送時の環境を常時適正化する冷凍物流エンジニアリングにより進化したコールドチェーンを構築していきます。さらに、シンガポールで採用されたERP2（次世代型電子式道路課金システム）に代表される交通インフラの高度化にも取り組みます。都市部の渋滞・環境問題は急速な発展

▶ エナジートランジション

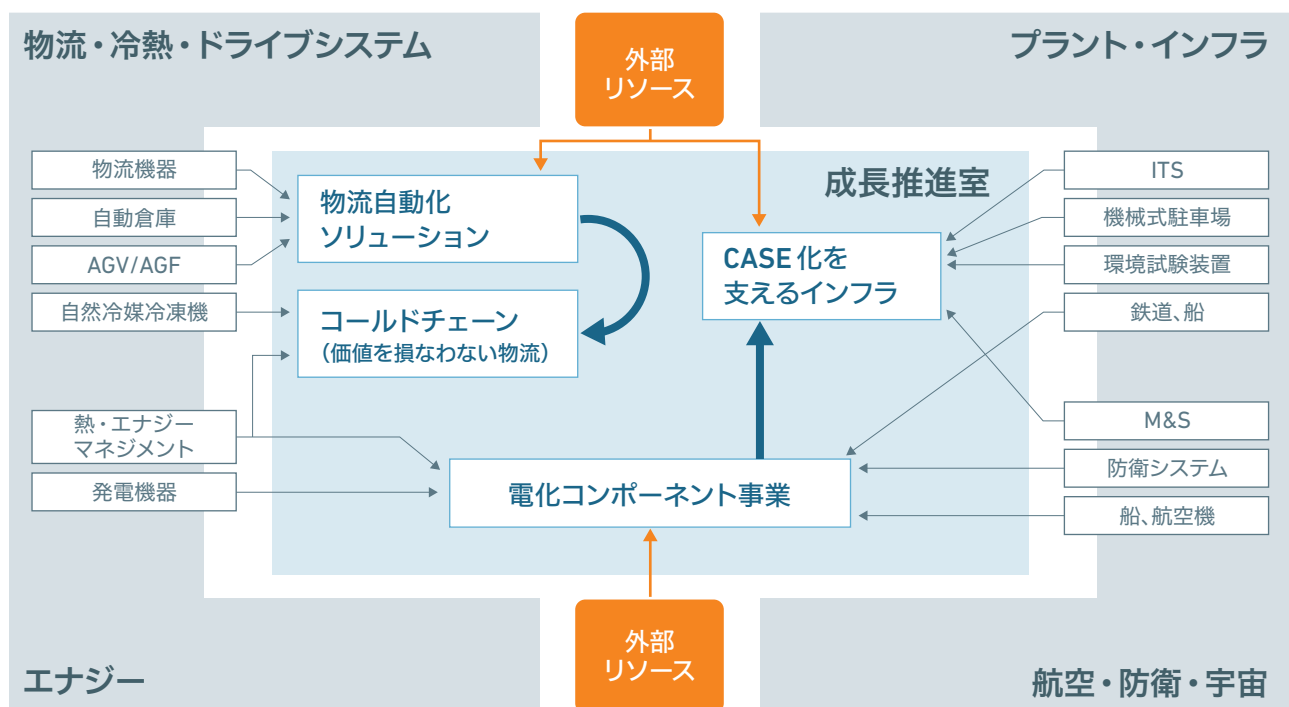


を続けるアジアの大都市の社会課題となっています。ERP2では、車両1台1台の走行データをリアルタイムで計測し、交通ボトルネックや事故分析を可能とします。また、このデータを活用して課金ポイントや走行距離単位での課金単位を細かく調整することでエリアごとの交通量の最適化を図り、道路渋滞緩和の実現に寄与します。

こうした総合的なソリューションを設計するには、デジタルから人工知能まで、あらゆる領域の専門技術が必要です。そのために、組織を横断したグループ内外の連携体制を強めるとともに、より多くの外部提携先と協力し、新規事業を立ち上げていきます。

私は、CSOとして、当社グループの収益力を高めたいと、社会課題を解決しながら事業の成功を牽引していく役割を担っています。現在、当社グループの多くの製品ラインが成熟期を迎えています。その中で当社グループの未来を支えていくのは、当社グループの社員が生み出すアイデアと新技術であるとの考えのもと、従来の慣習にとらわれず、よりオープン、かつ積極的にリスクをとり、トライアルアンドエラーを厭わない組織へと変革していきます。

▶ モビリティ等の新領域



AGV: Automated Guided Vehicle

AGF: Automated Guided Forklift

CASE: Connected, Autonomous, Shared and Electric

ITS: Intelligent Transport Systems

M&S: Modeling and Simulation